



▲学校再編に関する
ホームページはこちら

令和3年度は、小中一貫教育への「移行元年」と位置づけ、中学校区単位で研修会を実施し、教職員の連携強化を図っています。

小・中学校教員交流研修では、教員がお互いの学校を訪問し、各教科の指導内容のつながりを確認し、子どもたちへの適切な関わり方について理解を深めています。

「めざす15歳の子どもの姿」の実現に向け、新たな視点で、授業改善を行い、子どもたちの学力向上や豊かな人間性の育成につなげていきます。



小中一貫教育導入に向けて教職員の交流を進めています

小中一貫教育導入に向けて ～学校教育の視点が変わります～

図(市)学校再編室



子どもたちを9年間で育てます

市では、小・中学校において、予測困難な未来を生き抜く力を身に付けさせるために、義務教育9年間で「めざす15歳の子どもの姿」を共有し、子どもの発達段階に応じた指導を行う小中一貫教育の導入に向けて準備を進めています。

これまで、「小学校6年間」「中学校3年間」という枠組みで学ぶことが当たり前とされてきましたが、これからは子どもたちの成長を途切れさせることなく、連続した9年間を一体的にとらえ、つながりのある教育を行っていきます。

現状のように小・中学校の校舎が離れていても、学習内容や指導方法について情報共有や共通理解を図り、小中一貫教育を推進していきます。

また、市の豊かな自然や文化にふれる体験的な学びを充実させ、人や地域とのつながりを重視した教育を進めていきます。

.....9年間の小中一貫教育の特徴.....

学びのサポート

長期的な視点に立った、きめ細かな指導によって、「**学力向上**」をねらいます。

9年間を見通した教育課程を編成することで、つまずきやすい課題を明確にし、一人一人の目標に応じた適切な指導を行っていきます。



心のサポート

多感な思春期を迎え、いろいろな悩みを抱えている子どもには、小・中学校の教職員の連携協力によって、「**安心**」して学校生活が送れるようサポートします。



将来を見通した確実な学びを積み重ねる

未来を生き抜く力(主体性・協働性・創造力)をつけるために、9年間の学びをしっかりと積み重ねていきます。

主体性

自ら判断し、課題を見つけ、解決をめざす力

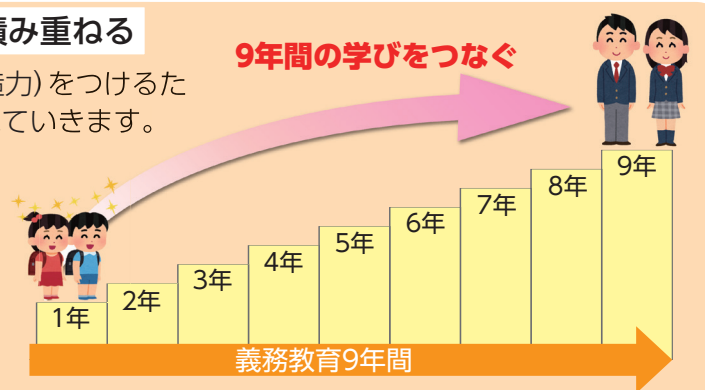
協働性

多様な他者を尊重し、ともに生きていく力

創造力

学びを活用し、新たな価値を生み出していく力

9年間の学びをつなぐ



今後の小中一貫教育について

今後の取組として、「義務教育9年間を見通した教育課程」を編成し、子どもの発達段階に応じた指導を行っていきます。

また、中学校区を基盤にして、地域と連携しながら、責任をもって子どもたちを見守っていく体制づくりについても検討していきます。

●めざす小中一貫教育

小中一貫教育の効果として、教職員が指導内容の系統性に対する理解を深め、9年間を見通した教科指導を充実させることが挙げられます。また、小中相互に教育実践を参観・協議することで授業力に幅と厚みが生まれ、子どもの「学びに向かう力」も大きくなります。

さらに、異学年交流によって主体性や自尊心を育み、より豊かな人間関係を築いていくことができるなどの強みもあります。



このように連続性と一貫性のある教育によって、子どもたちは心身ともに健やかに育っていきます。

現在、市では、学校の校舎が離れていても、この考えのもと、小中一貫教育を進めています。最終的にこれらの教育効果を最大限に発揮することができると期待される施設一体型小中一貫校※の導入をめざしていきます。

※小・中学校の校舎が一体的に整備されていて、小中一貫教育を行う学校のこと。児童生徒が同じ施設で学校生活を送るので、発達段階に応じた計画的・継続的な指導を行うことができます。